

アートで人とつながる多様な人材の育成

**赤字** 卒業必修科目  
**赤枠** 履修必修科目  
**社会実装科目**  
 (産学連携含む)  
 企業、自治体と連携し提案・実現する授業

		(A)アートで生きる	(B)アートを活かす	(C)アートと共に生きる		
		アーティスト 進学(大学院・留学・専門学校など)	専門職(学芸員・ギャラリスト・コーディネーター) 各種職人(和紙・菓子・絵付け・友禅) 大学教員(中高教員・大学非常勤講師・絵画教室など) 技法材料研究所・表具師 イラストレーター・ウェブデザイン・ゲームメーカー・デザイナー・印刷・アニメーター	画廊ディレクター 建築事務所、インテリアデザイナー 一般職(事務員・企画・接客・営業・製造など) 地方自治体職員 NPO法人職員など	社会的自立へ	
4 回生	●4年 「応用」 独自の表現を深める	卒業研究・制作(A,B,C)	卒業展・東京展	創造表現XII(A,B,C) 卒業展の展示計画と実施	豊かな個性の確立	
		創造表現IX(A,B,C) (卒制制作展に向けて)	卒業研究 (ゼミ・キャリア)	創造表現XI(A,B,C) ブレ卒制/卒制制作の試作制作	進路決定	
3 回生	●3年 「表現と思考」 専門性の高い多様な表現の習慣	創造表現VIII(キャリア)(A,B,C)	ポートフォリオ制作	プレゼンテーション実践	卒制に向けて	(A) 表現研究 I (B,C) 表現研究 III
		創造表現V(A) ノードデッサン	創造表現VI(A,B) 人物制作	創造表現VII(A,B,C) 進級制作	プレゼンスキルの向上	
		創造表現IV(キャリア)(A,B,C)	観察を極める	素材、絵肌の研究	My Archive	社会性の向上 学生作品展
2 回生	●2年「技術」 専門技術とPCスキルの修得	創造表現I(A) 岩絵の具による細密画制作(菊)	創造表現II(A,B) 最新素材と伝統素材の探求と実践	創造表現III(A,B) 地と図 余白の再考	ポートフォリオ作成	
		創造演習VIII(キャリア)(A,B,C)	ポートフォリオ講座	プレアーカイブ	ポートフォリオ講座	1年間の振り返りプレゼン
		創造演習V(A) 絹本制作	創造演習VI(A) 風景制作	創造演習VII(A,B) 天井画制作	マイアーカイブ展 インターン	
		創造演習IV(キャリア)(A,B,C)	制作ノート①②	支持体特性まとめ	様々な生き方を知る	
1 回生	●1年生 学習習慣の徹底と基礎力の養成	創造演習I(A,B) 支持体研究(楮裏打ち)	創造演習II(A,B) 支持体研究(綿布2種)	創造演習II(A,B) 支持体研究(鳥の子)	(A,B) 工芸各論 (B,C) 表現研究 II B (B,C) コンピューター演習 B (B,C) 表現研究 III ※青字は履修必修科目	
		日本画基礎VIII(キャリア)(A,B,C)	キャリア演習、造形基礎	ポートフォリオ作成	プレゼンテーション力の養成	(A,B) 美術各論 (B,C) 表現研究 II A (B,C) 表現研究 I (B,C) コンピューター演習 A
		日本画基礎V(A,B,C) 絵画観の追求	日本画基礎VI(A,B) 模写	日本画基礎VII(A,B,C) 1年次の集大成	将来に向けて行動開始	
		日本画基礎IV(キャリア)	修学素養、アイスブレイク、図書館ガイダンス、ガイダンス・京都	伝統的日本画から最先端表現まで芸術散歩 日本美術の膠・墨・水 支持体としての和紙、生紙、ドーサ 張り込み 京都芸術散歩		自己を見つめる
	日本画基礎I(A) 運筆とデッサン	日本画基礎II(A,B,C) 学科ファウンデーション	日本画基礎III(A) 日本画制作の基本	(A,B) 美術概論 I (B,C) 美術工芸史 I (B,C) 工芸概論 I (A,B) 美術工芸史 III (A,B) 美術工芸史 II (B,C) 図学 B  (B,C) ソーシャル・アート演習 I (社会実装科目)		
					将来の夢を育む	
					共同作業の喜びを知る	

教職(小・中・高)・学芸員課程

【1-b】 美術工芸学科 コース共通科目カリキュラムマップ

科目名	講義種別	履修学年	開講期	単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発注・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力						
				必修	選択																
美術概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		西洋美術の歴史	こんにち「名作」とされる美術作品は、どのように誕生し後世に受け継がれてきたのでしょうか。この授業では、古代から20世紀半ばにおける西洋美術作品を取り上げ、その様式の変遷の理解を目標とします。作品の背景となる西洋の社会および思想にも焦点をあて、歴史的観点から作品への理解を深めます。	西洋美術の作品の基本的な見方と、大きな美術史の流れを身に付け、様々な時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		西洋美術の歴史：20世紀美術を中心に	みなさんと一緒に、美術史上の作家たちも、与えられたそれぞれの時代の中で作品を生み出してきました。この授業では、美術概論Ⅰで概観した西洋美術史をより深めるとともに、西洋と日本の20世紀美術の流れを学びます。なかでも作家の生涯とその作品の変遷に焦点をあて、世界大観のはざま、彼らがどのように制作と向き合ってきたか考え、その表現を通して、作品理解を深めます。	西洋美術史を身につけるとともに、近代以降の日本作家がどのように西洋美術に對峙してきたか、時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		日本近代の工芸	近代日本の工芸の作品を社会背景の関連とともに紹介する。特に後半は、民藝の展示施設を具体例として、生活、文化、社会との関係を意識しながら工芸に対する概念の考察を深めていく。	ものづくり」に携わる者として、「もの」の存在意義について考えるきっかけをつかむ。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		鑑賞能力の育成	身近にあるものを取り上げ、外見や制作工程、歴史や思想など多角的に鑑賞を行う。その題材として、工芸品に限らず、映像や印刷の技法、イラストなども取り上げる。	さまざまなものを鑑賞する能力を身につけることで、自身のものづくりにおける視野を広げる。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術工芸Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		世界の都市問題と現代美術	現在、私たちがとりまく都市文明は具体的などのような姿で存在し、変化しつつあるのか。そして人間に対していかなる問題提起をはらんでいるのか。芸術と人間の基礎を形成するこの都市文明のアクチュアルなありようについて学ぶために、本講義では担当教員がそれぞれに体験してきた世界の様々な都市を紹介し、個別の体験を通して浮かび上がる都市や人間の問題について具体的に考察する。あたたか世界一周をすかのよう、地理的、歴史的な移動をダイナミックに繰り返しながら、より幅広く柔軟な視点で自身と世界を結び付け、思考し、現代の表現者となる若者が世界に向き合う表現を目指すようナビゲートしたい。	都市文明に関する基礎的な教養だけではなく、そこから人間や社会とは何かを主体的に考える力を獲得する。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸Ⅱ	講義	1年以上	前期	2		絵画史を西洋と日本の比較によって読み解く	西洋と日本との比較の観点から古代から現代までの絵画史を考察していきます。比較のテーマは、①歴史画、②宗教画、③肖像画、④風景画・自然描写、⑤静物画、⑥動物画の6つです。6つのテーマにおいて、両者にどのような相違があるのかを、代表的な作品を取り上げながら見ていきましょう。相違は、西洋と日本、それぞれの文化や、人々の考え方が反映されたものであるでしょう。そこに時代や画家の相違も見ていくことで、西洋と日本との比較によってそれぞれのテーマにおける問題点や工夫を知り、あなた自身の研究・制作のヒントを見つけ出しましょう。	授業で取り上げる6つのテーマに関する代表的な作品を知ること。また、それらの作品を西洋と日本との比較の観点から理解し、論じられるようになること。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸Ⅲ	講義	1年以上	前期 2019年度は夏期集中	2		日本染織文化史	日本の服飾と染織文化についての講義である。古代中国で創始された絹織物は、シルクロードを通り世界各地に広まった。日本の服飾文化も、絹織物に支えられ発展してきたといえる。本講義では、シルクロードを通じて諸外国の文化を受容する様子や、着物が成立する過程など、絹織染織品を中心に日本の服飾と染織文化を講義する。	日本の染織史の概略をつかむと共に、実物資料、絵画資料、文献からどのようなことが読み取れるのかを理解して基礎的な学力をつけることを目標とする。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		陶芸と彫刻に見る造形史	人類は有史以来、輝かしい文明を築いてきました。それに呼応して造形芸術の世界も大きく変遷を遂げてきました。洋の東西を問わず、地域、時代、社会を反映し、生活に根づいたものから芸術性、芸術性の高いものへと個性豊かな造形世界を構築しています。ここでは陶芸、彫刻による東西、時代の特性を比較研究、考察する。	古今東西の陶芸、彫刻を巡ることにより、その表現形式の変遷を考察することで造形の特質と社会との関わりを理解することができるようになる。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
表現研究Ⅰ	講義	3年以上	後期	2		造形美術にみる素材と技法の展開	われわれを取り巻く日常は多くの造形作品に満たされています。完成度の高い優れた作品は観る楽しみとともに想像をかきたて、生きる喜びを与えてくれます。そしてそれら、いずれの作品も厳選された素材と優れた技法により支えられています。これまで造形美術で培われた素材と技法を講義とワークショップによりその特性と機能について学ぶ。	造形作品と素材、技法についてその特性、機能を理解し、自らの専門分野として把握できるようにする。	50	100	0	0	0	0	50	100	0				
表現研究ⅡA	講義	2年以上	前期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究ⅡB	講義	2年以上	後期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究Ⅲ	講義	3年以上	後期	2		写真と芸術	必ずしも誰もが「写真家」になるわけでも、写真の専門家になるわけでもありません。しかし私たちがこの世界を認知するにあたって写真の存在がはた不可欠であるように、芸術を思考し志向するすべての人にとって、写真の存在を無視することはほぼ不可能です。そこでこの授業ではまず、写真と芸術がどのように接近し、反発しあい、相互に影響を及ぼしてきたかを歴史的に辿ります。そのうえで、ゲルハルト・リヒター、フィッシャー・ヴァイス、ソフィ・カルなど、写真をその表現手段のひとつとして柔軟に用いる様々なアーティストや写真家たちの作品を知ること。写真と芸術の関係を多角度から柔軟かつより深く考えられるようになることを目指します。	写真が芸術にどのような影響を与え、かつ今日いかなる意義をもつのかを主体的に考える力を身につける。	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0			
表現研究Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		繊維加工研究	染織テキスタイルの創作において必要不可欠な、染織材料、染料、加工（製織、染色）に関する基礎知識を体系的に説明します。ここでは、様々な専門用語がでてきますが、用語を単に覚えるのではなく、理解して覚えることに力を入れ、平易に解説します。新たな創作においてまず必要なことは、用いる素材、技法についての科学的な考察力です。	染織材料、染料、加工に関する体系的な基礎知識を得、染織テキスタイルに用いられる素材、技法について探求し、科学的な視点で考えるようになる。	40	80	30	60	0	0	0	30	60	0			
図学A	講義	1年以上	前期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法的基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	0	20	40	0	0	30	60	0	0	0	50	100
図学B	講義	1年以上	後期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法的基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	20	40	0	30	60	0	0	0	50	100		
美術各論	講義	2年以上	前期	2		創作者の思考と実践（美術工芸学科教員の研究から）	創作者の思想や制作態度を様々な領域から示す授業。学科専任教員による創作論をオムニバス形式で展開し、様々な分野の制作・研究内容とその環境、背景を知る。また、各教員の作家になるまでの経緯、作家としてのテーマや考え方、表現手法、素材の選択、今後の目標などを具体的に学び、各自の今後に活かす。美術各論は主に平面系創作者が担当する。	受講生は、教員の創作への様々な切り口を知り、創作の原点や創作方法を共有することから、学生自らの創作意識を高め、制作するときの考え方や実践に応用できるようにする。	0	60	120	0	0	0	40	80	0				
工芸各論	講義	2年以上	後期	2		創作者の思考と実践	1日1教員のオムニバス創作論。創作者としての目標、テーマ、考え方、素材の選択、表現の手法について、背景やキャリアを振り返りながら、学生の視点でわかりやすく紹介する。工芸各論は主に「素材」「技法」に関わりの深い領域の教員が担当する。	教員の創作の様々な切り口を知ることで、自身の制作について深く考えることができるようになる。	0	55	110	0	0	0	45	90	0				
コンピューター演習A	演習	2年以上	前期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				
コンピューター演習B	演習	2年以上	後期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				



【1-b】 美術工芸学科 日本画コース カリキュラムマップ

人材育成目標 (学科)	
日本美術を通し自己の考え方をもち、言葉で人に伝える力を養い社会で通用する人材を育成する。自身の絵画表現を進めるに当たり国内外の美術研究を行い幅広い知識を身に付ける。自己の立ち位置を確認する為に柔軟にコミュニケーションを取り絵画表現を進める。感覚的世界を言語し作品として結晶化出来る人材を育成する。	

創造力				人間力		
制作、研究に必要な情報と幅広い知識を獲得できる。	問題解決を導く多彩な思考方法を習得できる。	概念に囚われ無いでオリジナルな着眼点を持つ。	素材の特性を生かす技法の習得に出来る。	研究のため外部と積極的に接点を取れる様に成る。	好奇心を絶やさず自己効力感を維持する事が出来る。	的確に他者に作品のコンセプトを伝える事が出来る。

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	創造力				人間力					
		1	2	前期	後期	必修	選択				探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力			
日本画基礎Ⅰ / 創造基礎ⅠA	演習	1			前期	2		制作の主題を考える	授業の大半を実景や対象物を前にした写生に費やし、想像力を養うことに主眼を置く。筆で写生する「運筆」と、鉛筆・木炭によるデッサンの二つの柱を両立させ、観察眼と描写力を養う。	静物・風景、対象のモチーフと絵画としてのテーマの合致。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
日本画基礎Ⅱ / 創造基礎ⅡA	演習	1			前期	2		デッサン再考と素材の応用	グレー地からの白おこしとコラージュを通して“絵を描く喜び”を追及する。	多素材の応用と完成度。	30	60	0	0	40	80	0	30	60	0
日本画基礎Ⅲ / 創造基礎ⅢA	演習	1			前期	2		日本画制作の基本を学ぶ	鉢植えの紫陽花をモチーフに日本画制作を行う。日本画材の使用法、制作プロセスを学ぶ。京都で日本画を学ぶことを実践する。	日本画の素材の研究や技術の習得。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
日本画基礎Ⅳ / 創造基礎ⅣA	演習	1			前期	2		伝統的日本画から最先端表現までを実践する	語り継がれた、使いつづけられたものには理由がある。さらに、最先端技法材料を化学的検証のもと実践する	経験則から化学的検証へ変換することで、表現領域が広がる	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0
日本画基礎Ⅴ / 創造基礎ⅤA	演習	1			後期	2		観察眼と描写力を養う	観察眼と描写力を養う 日本画の世界観と自身の絵画観の追求	写生における運筆とデッサンの応用を意識する。 日本画材の素材の研究や技術の習得。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
日本画基礎Ⅵ / 創造基礎ⅥA	演習	1			後期	2		模写から先人の筆法を学び、天然絵具の使用法を学ぶ。	鳥獣戯画、隨身庭跡絵巻、百鬼夜行絵巻の模写。 油絵具を使用しヌードモデルをモチーフにモノタイプを多数制作する。	静物・風景の写生や臨模（手本を見ながら描く）による幅広い素材の研究と技術の習得。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
日本画基礎Ⅶ / 創造基礎ⅦA	演習	1			後期	2		群像をテーマに絵画を制作する。	モデルの複雑な表情を通して多様な表現を学ぶ。クロッキー、写生、草稿、念紙取り等の制作プロセスを身につけて、一年生基礎日本画の集大成とする。	モデルの写生による幅広い素材の研究や技術の習得。	30	60	0	40	80	0	0	30	60	0
日本画基礎Ⅷ / 創造基礎ⅧA	演習	1			後期	2		キャリア演習「造形基礎」ポートフォリオ作成とプレゼンテーションの養成	キャリアのための授業 自身の作品を写真撮影し、Adobe社のIllustratorとPhotoshopを使って1冊のポートフォリオ(作品集)を作成する。授業後半には入前で話すプレゼンテーションの機会を作り、自己の作品について考え表現する。	画像処理・ページ作成などをパソコンソフトを使って適切に作成でき、ポートフォリオを完成する。	0	0	0	50	100	0	50	100	0	
創造演習ⅠA	演習	2			前期	2		制作を通してあらゆる素材を知り、日本画の基礎表現を学ぶ。	支持体に楮紙を用い「衣服」をテーマに20号で制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅡA	演習	2			前期	2		複数の支持体を扱い、独自性のある表現を目指す。	支持体に綿布を用い「卓上」「皿物」をテーマに各30号で制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅢA	演習	2			前期	2		制作を通してあらゆる素材を知り、日本画の基礎表現を学ぶ。	支持体に和紙を用い「室内」をテーマに30号で制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅣA	演習	2			前期	2		＜キャリア授業 金曜1・2限＞ 美術工芸のみならず文学、民族、歴史、音楽等広く興味を持ち、その多様な要素を柔軟な感覚で日本画制作に取り込む。 自分の視点での取材を通して、課題制作を行いこの制作過程を制作ノートとして画像と文章で纏めポートフォリオにつなげる。	＜キャリア演習金曜1・2限＞ 美術工芸のみならず文学、民族、歴史、音楽等広く興味を持ち、その多様な要素を柔軟な感覚で日本画制作に取り込む。 自分の視点での取材を通して、課題制作を行いこの制作過程を制作ノートとして画像と文章で纏めポートフォリオにつなげる。	＜キャリア授業 金曜1・2限＞ ポートフォリオが充実し、第三者に伝わりやすいプレゼンが出来るようになる。	30	60	0	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅤA	演習	2			後期	2		制作を通してあらゆる素材を知り、日本画の基礎表現を学ぶ。	支持体に絹布を用い「植物」をテーマに8号で制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅥA	演習	2			後期	2		制作を通してあらゆる素材を知り、日本画の基礎表現を学ぶ。	自己の表現にふさわしい支持体を用い「風景」をテーマに50号で制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅦA	演習	2			後期	2		制作を通してあらゆる素材を知り、日本画の基礎表現を学ぶ。	支持体に和紙を用い植物をテーマで8Sの天井画を制作する。	素材の特性を知り、技術力をつけ、素材を柔軟に使いこなせるようになる。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0
創造演習ⅧA	演習	2			後期	2		＜キャリア研究＞就活、進学のためのポートフォリオ作り及び制作ノートの作成。	制作過程を文章と画像で記録し、進学、就職ともに活用出来るポートフォリオ作成をする。このポートフォリオを基に第三者に分かり易く伝えるプレゼン力を養う。	それぞれの個性をしっかりと表現し、読者が購入したくなるような作品を完成させる。	30	60	0	0	40	80	0	30	60	0
創造表現ⅠA	演習	3			前期	2		制作クラス：細密画 模写クラス：紙本・絹本の模写、屏風・巻子制作、截金実習	制作クラス：古典技法による菊の細密画 模写クラス：紙本・絹本の模写、屏風・巻子制作、截金実習	制作クラス：細部の観察を生かし、古典技法を徹底習得する。 模写クラス：紙本・絹本の模写を通して基本技術を学び当時の時代背景などを踏まえた日本の文化を学ぶ。また、表装、截金の基本技術を習得する。	40	80	0	0	0	30	60	30	60	0

創造表現IIA	演習	3			前期	2	制作クラス：静物画 模写クラス：模写、表 装、截金	制作クラス：「静物・組モチーフ」写生と本面制作 模写クラス：紙本・絹本の模写、屏風・巻子制作、截金実習	制作クラス：構成力を養い、空間を考慮した表現ができるようになる 模写クラス：紙本・絹本の模写を通して基本技術を学び当時の時代背景など を踏まえた日本の文化を学ぶ。また、表装、截金の基本技術を習得する。	0	30	60	0	40	80	0	30	60	0		
創造表現III A	演習	3			前期	2	制作クラス：運筆・墨 模写クラス：模写、表 装、截金	制作クラス：大画面を意識した運筆と墨の表現 模写クラス：紙本・絹本の模写、屏風・巻子制作、截金実習。	制作クラス：運筆技法を踏まえると同時に抽象的な墨の表現を学び、構図、 余白への各自の理解を深め独自の表現を目指す。 模写クラス：紙本・絹本の模写を通して基本技術を学び当時の時代背景など を踏まえた日本の文化を学ぶ。また、表装、截金の基本技術を習得する。	0	40	80	0	30	60	0	30	60	0		
創造表現IV A	演習	3			前期	2	<キャリア授業 金曜 1・2限> 日本画の領域を深化させ ることで日本文化を理解 する	<キャリア演習金曜1・2限> 日本絵画を理解することから社会貢献のあり方が見えてくる。伝統的な截金 実習や現代の最先端素材までを網羅し日本文化の深化を学び、就活でのプレ ゼンテーションに役立てる。	すべての授業の記録をまとめ思考プラン・プロセスとし、ポートフォリオ制 作に結びつけることで、京都造形芸術大学ならではの独自性が期待できる。 さらに大学院進学を目指すための高度な学びができ、卒業制作の表現領域の 拡大も期待される。	30	60	0	30	60	40	80	30	60	40	80	0
創造表現VA	演習	3			後期	2	制作クラス：人物素描 模写クラス：仏面制作、 屏風・襖絵部分模写、縹 緗文様小箱制作、掛け軸 制作、截金実習。	制作クラス：モノタイプによる人物素描 模写クラス：前期で得た技術を基に実際に仏面や縹緗彩色を描く事で古典彩 色を学び截金などの装飾美を学ぶ。また襖や屏風の部分模写を通して基礎知 識と技法、文化を学ぶ。	制作クラス：モノタイプによる素材や方法の多様性を生かし、予測不能な効果 やハプニングから新たな可能性を探る。 模写クラス：模写、表装、截金を通して基本技術を学ぶ。	50	100	0	0	50	100	0	0	0	0	0	
創造表現VIA	演習	3			後期	2	制作クラス：人物制作 模写クラス：仏面制作、 屏風・襖絵部分模写、縹 緗文様小箱制作、掛け軸 制作、截金実習。	制作クラス：モノタイプからの人物画制作 模写クラス：前期で得た技術を基に実際に仏面や縹緗彩色を描く事で古典彩 色を学び截金などの装飾美を学ぶ。また襖や屏風の部分模写を通して基礎知 識と技法、文化を学ぶ。	制作クラス：モノタイプによる素描から得た直感や感性を観念にとらわれず 本面に取り込むことで自身の潜在感覚を自覚めさせる。 模写クラス：模写、表装、截金を通して基本技術を学ぶ。	50	100	0	0	50	100	0	0	0	0	0	
創造表現VIA	演習	3			後期	2	制作クラス：卒制に向け て（個別課題） 模写クラス：仏面制作、 屏風・襖絵部分模写、縹 緗文様小箱制作、掛け軸 制作、截金実習。	制作クラス：卒業制作の為の実践的な準備 模写クラス：前期で得た技術を基に実際に仏面や縹緗彩色を描く事で古典彩 色を学び截金などの装飾美を学ぶ。また襖や屏風の部分模写を通して基礎知 識と技法、文化を学ぶ。	制作クラス：卒業制作の為の準備を具現化させるための、思考計画、ス トーリー、展示計画のプレゼンテーションをくり返し発表し、卒業制作への 準備を万全にする。 模写クラス：模写、表装、截金を通して基本技術を学ぶ。	0	30	60	40	80	30	60	0	0	0	0	
創造表現VIA	演習	3			後期	2	<キャリア授業 金曜 1・2限> 日本画の領域を深化させ ることで日本文化を理解 する	<キャリア演習金曜1・2限> 日本絵画を理解することから社会貢献のあり方が見えてくる。伝統的な截金 実習や現代の最先端素材までを網羅し日本文化の深化を学び、就活でのプレ ゼンテーションに役立てる。	すべての授業の記録をまとめ思考プラン・プロセスとし、ポートフォリオ制 作に結びつけることで、京都造形芸術大学ならではの独自性が期待できる。 さらに大学院進学を目指すための高度な学びができ、卒業制作の表現領域の 拡大も期待される。	30	60	0	0	30	60	40	80	0	0		
創造表現IXA	演習	4			前期	2	テーマ設定、展示計画	テーマ設定、展示計画及び年間計画書への記入開始 ゼミを決定した上で教員と制作の方向性と同時に展示の仕方等の打ち合わせ を行う。展示計画を踏まえた上で制作に於ける様々な可能性を探りつつ自身 のテーマを絞っていく。 模写選択者 これまでの知識と基礎技術をもとに、卒業制作となる模写対象作品を決定 し、資料収集や素材研究に取り掛かる。	卒制へ向けてテーマを絞り込めるようになるべく多くのエスキース、小下絵 を創る。作品がより効果的に見えるような展示を考える。 模写選択者 個別の研究対象を決定し、表装、展示を考慮に入れた年間計画を立てる	0	40	80	60	120	0	0	0	0			
創造表現XA	演習	4			前期	2	試作	テーマ決定 テーマ内容を決定しながらも検証を繰り返し論理性、素材の選択、サイズの 決定など制作に必要な事を多角的に詰めていく。決定した卒業制作のテーマ に基づいて試作等を開始する。 模写選択者 入手した資料を基に上げ写し下図に着手し、本制作の下絵まで完成させる。	考えたものが実現可能かどうか冷静に進める。そのための様々な試作も必 要。考え方に沿ったより良い表現を目指す。 模写選択者 入手した資料を基に上げ写し下図に着手する。同時に支持体や素材を入手 し、下絵を完成させる。各工程を写真に記録し、制作レポートに備える。	0	40	80	60	120	0	0	0	0			
創造表現XIA	演習	4			前期	2	ブレ卒制の本制作	テーマ決定、制作、ポートフォリオ制作 作品の方向性等が明快に示せるかプレゼンテーションを行い確認する。考え 方そのものが作品となる事を認識し、自信を持って強く表現する意識を持ち 卒業制作につなげていく。また、同時にポートフォリオ制作もスタートさせ る。	完成した試作品を検証し継続するか、見直すかを検証する。問題がある場 合、それが考え方なのか、制作手法なのかを見極める。	0	60	120	40	80	0	0	0	0			
創造表現XIA	演習	4			後期	2	制作、展示計画の確認	展示場所を確定し、現場に見合った展示計画を立てる。自分の作品が実際に 展示可能なかの確認をする。撮影会前にはセッティングし、自分でも撮影 する。画像はポートフォリオにも納めておく。卒業制作展には作品と合わせ てポートフォリオを展示する場合も考えておく。 模写選択者 下絵から彩色模写制作を進める。	作品そのものだけでなく展示空間を想定した制作の確認。また、制作過程で の考え方や使用材料等の記録を残すようにする。（これはポートフォリオ制作 に於いても役立つ） 模写選択者 制作工程を理解しながら彩色を進める。同時に制作工程を写真に記録する。 （ポートフォリオにも備える）	0	50	0	0	0	50	100	0	0			
卒業研究・制作	演習	4			後期	4	卒業研究・制作A	今まで積み重ねてきた表現を基に各自が自由にテーマを設定し、展示方法や 使用する素材の工夫をしつつ自身の感性を生かした表現に結びつくよう制作 する。常に知的向上心を持ち作品の幅と深さを探求する。いかなる作品内容 であっても高い表現技術を兼ね備えた、独自で上質な世界を追求する。 模写選択者 作品の完成。表装。展示。制作レポートの作成。	自身の考えが表現できるような制作と展示空間の実現を目指す。 模写選択者 作品の完成。表装。模写対象作品の本来の展示目的なども考慮に入れながら 自身の展示表現を考える。	0	0	0	80	320	0	20	80	0			